

## キイーン

文 飯塚 宏明

text by Hiroaki Iizuka

飯塚 宏明  
院長

あの音を聞いただけで汗が出てくる。あの音を聞きたくないから歯医者に行かない。

今回はみんなが嫌う歯医者者の削る道具のお話です。嫌な音の代名詞の正式名称は「エアータービン」。飛行機のジェットエンジンや車の出力を上げるタービンと同じ原理で、圧縮した空気で羽を回し20万回転もの高速回転を得ます。その中心軸に人工ダイヤモンドを焼きつけたヤスリ（バーと言います）をつけなんでも削っていきます。

ダイヤモンドですから体の中で一番硬いエナメル質もいとも簡単に削ることができま。ただヤスリで削っていくので熱を発生します。歯の中の神経髄は40・3℃で死んでしまいますので、水で冷却することが必要となります。

3方向から水を噴射し削る面の温度が上がらないよう冷却します。そのためその冷却水を吸い取るためバキュームとよばれる吸引装置が必要になります。

先生の横に付いている助手さんが担当します。タービンとダイヤモンドバーの組み合わせは、非常に切れ味がよく振動も少なく弱い力でも歯にダメージを与えずに削っていくことができます。

つまりあの音の機械が痛いのではなく麻酔がキチッと機能していないか、必要以上に強い力で押し当てているため温度が急にながって痛みが出るのです。あの機械が痛いわけではありません。但しなんでも削れるので取扱注意です。

もう一つ歯医者にはエンジンと言われる削る機械があります。これは電動モーターで2〜3万回転くらいで回ります。これを奥歯で使うには回転方向90度を曲げてやらないと、奥歯には入りません。

そのために傘型の歯車を使って方向を変えてあげます。当然機械的に方向を変え切削具を回すので振動は大きめです。これにノミのような歯のある切削器具をつけて削っていきます。

モーターによる機械なのでトルクはありますがスピードは遅いです。逆に言うとならぬエナメル質のように硬いものは削りにくいですが、象牙質（特に虫歯に感染して柔らかくなった象牙質）を選択的に取っていくのには向いています。

外側の硬いエナメル質を最小限タービンで削り、中の感染した柔らかい象牙質をエンジンで落とすしていく。健康な部分ができるだけ削らないように虫歯に感染したところだけ落とすしていく。

そのために歯医者者はいろいろな削る道具を選んでいきます。あの音が痛いではありません。なんとか最小限の侵襲で済むようにしているのがあの音の機械なのです。

治療中は何をされているか自分では見ることのできないお口の中。何をされているかわからないゆえに恐怖心があるとあります。

音や振動の原因が少しでもわかれば、怖い気持ちも少し薄れたら、歯医者に足を運んでみてはいかがでしょうか？

## Profile

1959年 神奈川県小田原市の米屋の長男に生まれる  
1985年 日本歯科大学歯学部卒業  
1988年 バイクで通勤中トラックと衝突し第1頸椎及び右手首粉砕骨折、絶対安静6カ月の入院生活を送る～ 医療従事者でありながらベッドの上で何もできない自分に出会い、これがきっかけで身体全体を考えるようになる～  
1990年 千代田区神田神保町に「飯塚歯科」開設  
趣味：ダイビングもうじき800本、60歳でサーフィン始めて毎週通う。  
音楽：ボサノバ-セルジオメンデス&ブラジル66、JAZZ-Idea6、J-POP-中森明菜



飯塚歯科ホームページ

https://aidental-iizuka.com

